

石田梅岩

2018 年本試

問 5 石田梅岩についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 心を磨くための教えとして、儒教だけではなく神道や老荘思想も柔軟に取り入れながら自説を形成したが、仏教を排斥しようとする姿勢を崩すことはなかった。
- ② 商家で奉公していた経験を活かし、京都の自宅で日常生活に即した平易な講話を行った。受講料を取らず、聴講は自由としたが、女性の聴講を認めることはなかった。
- ③ 身分を上下関係としてではなく社会的分業を示すものと捉え、職業に励むことでそれぞれの役割を果たすことを人々に勧めたが、身分制そのものを否定したわけではなかった。
- ④ 当時、蔑視されがちであった商業行為を肯定し、品物を流通させることで為政を助ける点に積極的役割を認めた。だが、利益を獲得することを肯定したわけではなかった。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 5 | 24 | ③ | 3 |

2014 年本試

問 6 次のア～ウは、人間として望ましい行いについて説いた江戸時代の思想家の説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 25

ア 徳川方の武士として軍功をたて、後に禅僧となった。武士・農民・職人・商人のいずれも、自らの生業を通じて仏と成ることができると説き、商人は、売買の営みを、天道から与えられた役目として受けとめ、正直を旨として商いに励むべきであると述べた。

イ 中江藤樹のもとで儒学を学んだ。そして、「治国平天下」という儒学の理念を、現実との関わりのなかで考え、例えば、樹木を切り尽くすと山の保水力が乏しくなり水害が起こりやすくなるので、山林を保護すべきであると主張した。

ウ 独学で、神道・仏教・儒教を学び、自らの商人としての体験を踏まえ、人の道について考察した。儉約と正直に基づいた、商いによる利益の追求を、天理にかなう正当な行為であるとし、儉約と正直という徳は、すべての人が守るべき道であると説いた。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 石田梅岩 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 鈴木正三 |
| ② | ア | 石田梅岩 | イ | 鈴木正三 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ③ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 石田梅岩 | ウ | 鈴木正三 |
| ④ | ア | 熊沢蕃山 | イ | 鈴木正三 | ウ | 石田梅岩 |
| ⑤ | ア | 鈴木正三 | イ | 石田梅岩 | ウ | 熊沢蕃山 |
| ⑥ | ア | 鈴木正三 | イ | 熊沢蕃山 | ウ | 石田梅岩 |

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 6 | 25 | ⑥ | 3 |

2011 年追試

問 4 商人が行うべき道について石田梅岩が説いた内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 商人の道においては、儉約が大切である。儉約の徳は、単に物を節約するだけではなく、正直の徳と結び付き、物と人とを有効に生かす原理である。
- ② 正当な仕方で利益を増やすことが商人にとっての正直であり、商人には、競争相手との駆け引きに勝って、自分の商売が繁盛するように考える競い合いの心が大切である。
- ③ 商人が正当な利益を得るためには、買い手に自分が養われていると考え、互助の精神を大切にして、買い手が満足するように努力すべきである。
- ④ 商人が正当な商売で得ることができた利益は、商人の社会的な役割に対する正当な報酬であり、その利益は国を治める武士が報酬として受け取る俸禄ほうろくと同じである。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 4 | 17 | ② | 3 |

2010 年本試

問 1 文章中の 14 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。 14

当時の身分社会では低い地位にあった商人たちのなかにも、日々の生活のなかで出会った信仰や学問をもとに、新しい思想を生み出す者がでてきた。例えば、14は、神道や仏教、儒教と老荘思想などを取り入れ独自の実践的哲学である心学を打ち立てた。

- ① 安藤昌益 ② 石田梅岩
③ 荷田春満 ④ 富永仲基

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 3 問 | 問 1 | 14 | ② | 2 |

2001 年追試

問 1 文中の 18 に入れるのに最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ
選べ。

石田梅岩が主張した「正直」も，清明心と称された考え方の影響を受けたもので，
自らの心のあり方に力点が置かれていた。そして「正直」に立ち返るために梅岩
が重視した「18」も，物と人を活かす「道」として位置づけられており，現在の
理解とは異なっていた。

- ① 儉約 ② 人情 ③ 謙讓 ④ 義理

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|------|----|------|----|----|
| 第3問 | 問1 | 18 | ① | 2 |

2000 年追試

問 4 石田梅岩の思想を表す記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 自分が現在このようにして存在するのは，天地や君，親などの大きな徳のおかげであり，その恩に徳をもって報いなければならない。
- ② すべての人間は自ら衣食住を自給すべきであるのに，武士や手工業者などは自分で耕作を行わずに農民に寄生している。
- ③ 自分を偽らず他者をも偽らないという純粋な心情である誠が，人間相互の仁・愛の根底になければならない。
- ④ 人は身分やそれぞれの持ち分に満足し，日常生活の中で正直と儉約に心がけ実践することが必要である。

| 問題番号 | 設問 | 解答番号 | 正解 | 配点 |
|-------|-----|------|----|----|
| 第 4 問 | 問 4 | 26 | ④ | 2 |